

## 特別科卒業生 対象

<研究室(京都のみ)/特修クラス(京都平日・土日)>

# 総合特別科 募集要項

コースは以下の2つです。

①研究室(京都のみ)

②特修クラス(京都のみ、平日・土日) ※東京校の土日コースは2024年度に募集

### 【受講について】

- ・総合特別科は、特別科を卒業された方を対象にしたクラスです。
- ・同時に複数のクラスを受講することはできません。  
但し、学術研究室(ゼミ)と特別講習(3日間教室)との並行在籍は可能です。

### 【開講について】

- ・今年度は、次の入学人数をもって開講します。自由花:12名 生花、古典立花、立花:20名
- ・開講されない場合、締切後に教務課よりご連絡いたします。(別クラスへの振替が可能です。)

## 研究室(京都のみ)

研究室名	担当教授名
自由花	野田学・佐々木康人・村上謙治
生花	中村福宏・清水新一・倉田克史・石渡雅史・土屋郁剛
古典立花	西田永
立花	中村福宏・小林春荘・西田永・清水新一・古川浩孝

・1研究室につき最大3年の受講が可能です。年齢による職位の制限があります。

生年月日が S37年1月1日以降の者	・ ・ ・ ・ ・	正教授一級以上	※2023年度より変更
S33年1月1日～S36年12月31日の者	・ ・	准華督以上	
S30年1月1日～S32年12月31日の者	・ ・	華督以上	
S28年1月1日～S29年12月31日の者	・ ・	副総華督以上	
年齢制限無し	・ ・ ・ ・ ・	総華督以上	

## 特修クラス(2023年度の募集は京都のみ)





2年制平日(全8期)/ 2年制土日(全10期)※東京校土日コースの募集は2024年度です。

専攻科目名			
自由花専攻	生花専攻	古典立花専攻 ※	立花専攻

- ・入学資格は各専攻とも特別科卒業生で正教授一級以上とする。(2023年度より変更)
- ・講師は、特命教授・教授・准教授・客員教授が担当します。(1期同講師)
- ・各講師が每期ごとにカリキュラムを用意します。


※古典立花専攻は、総合特別科(古典立花研究室・立花研究室・立花専攻)のいずれかを一度でも修了されている方に限ります。


総合特別科 研究室 受講内容

<p><b>野田学</b> 自由花研究室</p> 	<p>「形から姿へ」(池坊専永家元)と「池坊いけばなは時代の現代文化」(池坊専好次期家元)を念頭に、従来の「造る自由花」ではなく、これからの「いける自由花」について論理的に分かりやすく解説し、実習します。</p> <p>自由花が大好きな方はもちろん、自由花が苦手な方も、池坊発展のために一緒に学んでいきましょう。</p> <p>&lt;研究内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「いける自由花」の基本を学ぶ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・池坊の伝統的美感(草木美の捉え方)と構造(素材の取り合わせと構成)</li> <li>・表現を演出する手法、等</li> </ul> </li> <li>● 飾る環境との調和(置、掛、釣)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしの自由花、花展の自由花</li> </ul> </li> <li>● 新風体(講義と実習)の方向性を自由花にいかす</li> </ul>
<p><b>佐々木康人</b> 自由花研究室</p> 	<p>「自由花で立花・生花にはない草木の魅力表現する」 当研究室では、この専永宗匠のお言葉を土台にあらゆる自由花の可能性を追求します。ひと目で貴方の作品とわかる個性ある自由花を目指します。</p> <p>&lt;研究内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自由花の基本をマスターしよう             <ul style="list-style-type: none"> <li>・草木美の捉え方 (自然的・デザイン的)</li> <li>・小品自由花を自由自在に(インテリアの花・花展の花)</li> </ul> </li> <li>2.モチーフの捉え方をマスターしよう             <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画や写真等からモチーフの捉え方を研究します</li> <li>・多様な感情(喜怒哀楽)、雰囲気の表わし方を研究します</li> </ul> </li> <li>3.未知なる自由花を目指して             <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け、釣り等多様な環境。オシャレな花・カワイイ花 等</li> </ul>             私と一緒に、未来に向かう貴方の自由花を研究しましょう。         </li> </ol>
<p><b>村上謙治</b> 自由花研究室</p> 	<p>生活様式の変化がめまぐるしい昨今 形式にこだわらずもっとも必要とされてきている自由花・・・ 身近にある自然を素材として、素直な気持ちでその美しさを、 自分自身を表現できる自由花こそ 『池坊専応口伝』からも多くを学び取ることが出来ます。</p> <p>&lt;研究内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草木を見極める(姿、形から特徴を)</li> <li>・教える花、花展の花、暮らしに合った花</li> <li>・創作の楽しさ(手作りの器、他)</li> <li>・環境に応じた新たなアプローチ(掛、釣り、タペストリー、ミニチュア、他)</li> </ul>
<p><b>中村福宏</b> 生花研究室</p> 	<p>・池坊生花における総合的研究</p> <p>生花は池坊いけばなの中で、最も簡略された中に草木の命の響きを表現する花形です。少ない役枝を通して表現しますが、大切なことがたくさん集約されている花形です。</p> <p>生花の持つ格調美をしっかりとつかみとり、今日の適応性を考え自己の感性を磨いていただく研究室です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生花の成り立ちから、今日までの過程</li> <li>・生花における伝書に基づく研究</li> <li>・生花正風体と新風体との相違点と表現方法への研究</li> <li>・今日の環境、花材、花器、それぞれの適応性を考える</li> </ul>

<p><b>清水新一 生花研究室</b></p> 	<p>「命の生き立ちを見つめる」</p> <p>日本人が持つ研ぎ澄まされた繊細な美意識を数少ない花材で、しかも短時間で表現することができることから、生花は今日まで庶民の間でも広くひろまってきました。</p> <p>改めて、こんな時代の今だからこそ、「命の生き立ちを見つめる」池坊生花の価値が輝くと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生花の発生とその変遷 <ul style="list-style-type: none"> <li>その時代の思想背景と生花の変化を考察</li> </ul> </li> <li>・伝書の理解と技の習得</li> <li>・現代に生かす生花を模索</li> </ul>
<p><b>倉田克史 生花研究室</b></p> 	<p>「温故知新」</p> <p>先人の教えに学び、今、そして未来に向けて</p> <p>「シンプルスタイル」＝「省略の美」の可能性を追求します。</p> <p>指針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生への共感を持ち、草木に対峙する視点養育</li> <li>・生活環境の中でのフレッシュな生かし方を模索</li> <li>・生花の発生と変遷、その時代背景の考察</li> <li>・伝書を紐解き、基本理念と技の確かな習得（五ヶ条・七種伝・別伝）</li> <li>・草木の姿を通して、自己の想いを表現</li> </ul>
<p><b>石渡雅史 生花研究室</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な池坊生花の研究</li> </ul> <p>生花という花形は、池坊の中で最も制限された花形ですが、だからこそ深く考え、理念に触れる事ができると私は考えています。</p> <p>命ある草木の姿勢に着目した生花は正風体・新風体にかかわらず一貫した内容が流れています。生花の根底に流れる考え方を明らかにし、感性と技を磨き、ご自身でいけられる生花の世界を拡げていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝書にしるされた型表現“伝花”と“変化形”の研究</li> <li>・生花の成り立ちと変遷 ～型が生まれる以前の花“抛入花”の研究～</li> <li>・正風体、新風体の環境等に適応した今日的表現の研究</li> <li>・自分で考え、いけられる花へ。地元指導への導き</li> </ul>
<p><b>土屋郁剛 生花研究室</b></p> 	<p>当研究室は、生花研究を通して、池坊いけばなの理念である「野山水辺をのつからなる姿」、植物の生き様に心を寄せる「よろしき面影」を後世に繋ぐ、人材の育成を目指す研究室です。</p> <p>池坊いけばなを愛する皆様とともに、先人の足跡に耳を傾け、明日に咲く花の輝きを求めます。</p> <p>〈生花正風体〉先人の美感に心を寄せ、その求めたるものを追求します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生花の基本花形及び三種生の理解と習得</li> <li>・生花における伝書の理解(初伝、中伝、皆伝、生花別伝、小巻、大巻)</li> <li>・釣、掛、五ヶ条、七種伝、変化形、生花別伝の習得</li> </ul> <p>〈生花新風体〉個々の「形に現れる以前の心の動き」を捉え、表現力を追求します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新風体による表現の探求</li> <li>・専定生花の研究</li> </ul>

<p><b>西田永 古典立花 研究室</b></p> 	<p>室町期から江戸期までの立花の変遷を俯瞰的に捉え、立て花の時代、二代専好から専養代を中心に古典の世界を学び、今日的立花表現への可能性を考察します。</p> <p>寸水尺樹をもって山谷里江の風景を席に移すといわれる立花表現ですが、時を超えて今に通ずる典雅な美しさとその魅力に心を遊ばせてみませんか。</p> <p><u>研究内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代からの考察 立て花、各時代を代表する花人とその作風</li> <li>・特殊な表現と構成 直真の多様性、砂物、胴束、一色 等</li> <li>・幹造り等の特殊な技法</li> </ul>
<p><b>中村福宏 立花研究室</b></p> 	<p>・池坊立花における総合的研究</p> <p>今日、立花は大きく二つに分かれました。立花正風体と立花新風体です。私の研究室では、立花正風体を基本として立花新風体へ進み、立花の総合的な考え方を研究していただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立花の変遷(成り立ちから今日まで)</li> <li>・正風体の基本から応用へ</li> <li>・新風体の基本的な考え方から、自己の新風体を極める</li> <li>・各自の個性を尊重し、感性を磨く</li> </ul>
<p><b>小林春荘 立花研究室</b></p> 	<p>立花は「松に始まり松に終わる」のではないのでしょうか。松は立花において最も重要な花材であり、多くの伝花のモチーフにもなっております。当研究室では今一度この松という素材に注目してみたいのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○そこでまず一作目は松を使用し、従来の和物を中心とした基本的な立花正風体を勉強します。</li> <li>○次の二作目は、一作目で使用した松などの花材を再利用し、今度は現代感覚を取り入れた今日的な正風体を試行錯誤しながら挑戦していきます。</li> <li>○あとは一、二作目とは全く異なる現代生活にマッチした立花新風体と取り組んでいきます。</li> </ul> <p>以上、五日間を基本的に三部構成で進めてまいります。</p> <p><b>当研究室は残すところ、あと2年となりました。皆様のご応募をお待ちしております。</b></p>
<p><b>西田永 立花研究室</b></p> 	<p>一輪の花、一枝一葉のはずむ姿に思いを寄せ、自然の美しい景色や心象をその様式に昇華する立花の心と技は、優れた先達によって伝承され、その時々の人々の心を満たしてきました。</p> <p>当研究室では、立て花から新風体へと展開してきた立花様式の柔軟な適応性を考察するとともに、現代の多様な環境に対する更なる可能性を追求します。</p> <p><u>研究内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;基礎から応用&gt; より高い完成度と創作を目指すための基礎力の強化</li> <li>・ &lt;立花正風体&gt; 伝統的美感に基づいた構成と変化</li> <li>・ &lt;立花新風体&gt; 立花の創作性と今日的環境への適応</li> </ul> <p>全期共通の研究内容です。</p> <p>各自の立花表現がより充実するようパワーポイント等を用いて、わかりやすい指導を心がけています。</p>

<p><b>清水新一 立花研究室</b></p> 	<p>「立花を立てる事が好きで、その時間が最も楽しい。」と感じているのは、私だけではないと思います。そのうえ、立花を立てる本来の楽しさを見出し、満足のいく花を立てようと努力する自分や仲間に出会えば最高です。</p> <p>当研究室では、まず池坊の伝統的な美感を育てることを大切に考えています。その為に、花材の選定や構成などを考察することが重要と考えます。さらに、それらと現代の社会状況、花材事情との調和を模索していけば、古典では為し得ない、より幅広い新しい美の追求が出来るのではないかと考えます。</p> <p>&lt;立花正風体&gt; 構造を理解し、伝統的な美感を養う。より指導しやすく、習いやすい立花を模索する。</p> <p>&lt;立花新風体&gt; 現代の社会状況や花材事情を踏まえながら、現代人の感性を刺激する花の極限に迫る。</p> <p>経験の多少に関わらず、一人ひとりのペースで無理のない歩みの中から、自分自身で納得のいく花が立てられるように共に勉強していきましょう。</p>
--	--

<p><b>古川浩孝 立花研究室</b></p> 	<p><b>自然への深い理解と草木への愛情(池坊専永宗匠)のお言葉を念頭に花や葉、枝、その植物の個性を大切にした立花制作を心がけます。特に色彩や空間(余白)の重要性を研究テーマとして艶やかで潤いのある立花を目指します。</b></p> <p>&lt;立花正風体&gt; 基礎から個性あふれる作品へ。一色物や幹造り立花の基礎の習得から応用へと、ひとりひとりの歩みに合わせて無理のない作品制作を行います。</p> <p>&lt;立花新風体&gt; 立花新風体は日々進化しています。研究室では、その進化に遅れないよう多方面から考察し個性が輝く作品制作を目指します。</p>
--	---

特修クラス 受講内容 (予定)		
	講義	実技
自由花専攻	池坊の自由花とは	草木美からの発想
	自由花の表現と構成	テーマ設定して制作(制作意図の明確化)
	発想と表現(一日に一作)	発想(草木美、器、環境、行事、等)を指定
	表現の多様性/自然的・非自然的表現(一日に一作)	担当教授が詳細を指定
	器からの発想(一日に一作)	器を指定して(広口、変形花器、生活の器、等)
	表現に基づく素材と手法(一日に一作)	・加工異質素材を用いて ・花留の工夫
	構成の多様性/置(一日に一作)	センターピース、ミニチュア、連瓶、等
	構成の多様性/釣掛(一日に一作)	掛花、釣花
	構成の多様性/レリーフ・タペストリー(一日に一作、または二日で一作)	レリーフ・タペストリー ※レリーフ・タペストリーと置の小品等の融合等も可
	構成の多様性/モビール(一日に一作、または二日で一作)	モビール ※モビールと置の小品等の融合等も可
	中作(一日に一作、または二日で一作)	中作
	大作(二日で一作)	大作
暮らしの自由花(一日に一作)	担当教授が詳細を指定	
春のいけばな展(中央研修学院祭)に向けて		
修了式		

特修クラス 受講内容 (予定)

	講 義	実 技
生花専攻	生花の変遷	正風体 一種生・二種生(枝物)
	生花正風体について	春のかきつばた
	七種伝について②	蓮または芭蕉
	変化形について①	株分
	真・行・草について①	草の花形 一重生、または二重生
	変化形について②	交ぜ生、または七夕七種
	生花五ヶ条について①	三ヶ船
	真・行・草について②	向掛・横掛
	生花別伝の発生と意義内容	上中下三段流枝
	七種伝について②	水仙、または万年青
	正風体と新風体の相違点	正風体三種生、または新風体
	変化形について③	かきつばた(重切含む)
	七種伝について③	朝顔
	生花におけるモチーフとテーマ	今日的花材(外来種・園芸種) 一種・二種・三種
	変化形について④	釣生 その他
	生花別伝について	上中下段流枝以外のその他
	新風体 環境への適応性	新風体(釣・掛含む)
	春のいけばな展(中央研修学院祭)に向けて	
修了式		

特修クラス 受講内容 (予定)

	講義	実技	
古典立花専攻	二代専好の作風に学ぶ	二代専好の作風に学ぶ	立花之次第九拾参瓶有 23図
	専好の弟子の作風に学ぶ	かきつばたを使った作品	立花之次第九拾参瓶有 74図
	専好の弟子の作風に学ぶ	専好の弟子の作風に学ぶ	立花図并砂物図67図
	池坊専養に学ぶ	大住院の作風に学ぶ	大住院立花図并砂物46図
	元禄時代の作風に学ぶ	専好の弟子の作風に学ぶ	立花図并砂物76図
	砂物	元禄時代の作風に学ぶ	松を使った砂物
	春のいけばな展(中央研修学院祭)に向けて・修了式		池坊専養の松一色に学ぶ
春のいけばな展(中央研修学院祭)に向けて・修了式			

	講義	実技	
立花専攻	立花正風体(基本)	草がちの立花	
	草木の縁について(正風体)	木草挿交ぜ立花	
	習物七ヶ条について	下段大遣い・昇胴・大遣い	
	立花新風体について	立花新風体	
	習物七ヶ条について	高請、または大内見越	
	立花新風体について	立花新風体	
	立花正風体(幹造り)	幹造り	
	立花十九ヶ条(三ヶの流枝)	中段流枝、または左流枝	
	立て花について	立て花	
	立花十九ヶ条について(七一色)	杜若、または蓮一色	
	立花十態について	野沢体(一草の立花)	
	立花新風体について(釣・掛)	立花新風体(釣・掛)	
	砂物について	砂物	
	春のいけばな展(中央研修学院祭)に向けて		
	修了式		

学費

科名	入学金	施設維持費	受講料 ( )内は1回分	修了・卒業経費
総合特別科 研究室	40,000円	33,000円	163,200円 (40,800円)	43,000円
総合特別科 特修クラス	40,000円	33,000円	163,200円 (40,800円)	43,000円

特別科卒業者、総合特別科修了者は春のいけばな展に出瓶して頂きます。(出瓶料は修了経費に含む)

春のいけばな展会期:2024年3月15日(金)~18日(月)

## 開講日程

【総合特別科 研究室】 ※日程は変更になる場合があります

	1 期	2 期	3 期	4 期(2024 年)
自由花(野田)	5/8(月)-12(金)	7/3(月)-7(金)	10/16(月)-20(金)	1/15(月)-19(金)
自由花(佐々木)	5/8(月)-12(金)	7/24(月)-28(金)	10/23(月)-27(金)	1/22(月)-26(金)
自由花(村上)	5/8(月)-12(金)	7/3(月)-7(金)	10/16(月)-20(金)	1/15(月)-19(金)
生花(中村)	4/24(月)-28(金)	7/24(月)-28(金)	10/23(月)-27(金)	1/22(月)-26(金)
生花(清水)	4/24(月)-28(金)	7/3(月)-7(金)	10/23(月)-27(金)	1/22(月)-26(金)
生花(倉田)	4/10(月)-14(金)	7/3(月)-7(金)	10/16(月)-20(金)	1/22(月)-26(金)
生花(石渡)	4/10(月)-14(金)	7/3(月)-7(金)	10/23(月)-27(金)	1/15(月)-19(金)
生花(土屋)	4/10(月)-14(金)	7/24(月)-28(金)	10/16(月)-20(金)	1/15(月)-19(金)
古典立花(西田)	4/24(月)-28(金)	7/8(土)-12(水)	10/16(月)-20(金)	1/15(月)-19(金)
立花(中村)	5/13(土)-17(水)	7/8(土)-12(水)	10/9(月)-13(金)	1/15(月)-19(金)
立花(小林)	5/8(月)-12(金)	7/24(月)-28(金)	10/23(月)-27(金)	1/15(月)-19(金)
立花(西田)	5/8(月)-12(金)	7/24(月)-28(金)	10/2(月)-6(金)	1/22(月)-26(金)
立花(清水)	5/13(土)-17(水)	7/8(土)-12(水)	10/9(月)-13(金)	1/29(月)-2/2(金)
立花(古川)	5/13(土)-17(水)	7/8(土)-12(水)	10/2(月)-6(金)	1/22(月)-26(金)

【総合特別科 特修クラス】 家元(京都)のみ ※日程は変更になる場合があります

2 年制平日(開講曜日は「月・火」)

	1 期	2 期	3 期	4 期(2024 年)
特修自由花	5/8-9	7/10-11	9/25-26	2/12-13
特修生花	4/17-18	6/26-27	10/9-10	1/22-23
特修古典	5/8-9	7/10-11	9/25-26	1/29-30
特修立花	4/17-18	6/26-27	10/9-10	1/29-30

2 年制土日 ※日程は変更になる場合があります

	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期(2024 年)
自由花専攻	4/15-16	6/17-18	8/19-20	10/21-22	1/20-21
生花専攻	4/15-16	6/24-25	8/5-6	10/28-29	1/13-14
古典立花専攻	4/29-30	6/24-25	8/5-6	10/21-22	1/13-14
立花専攻1組	4/15-16	6/17-18	8/5-6	10/21-22	1/13-14
立花専攻2組	4/29-30	6/24-25	8/19-20	10/28-29	1/20-21
立花専攻3組	4/29-30	6/24-25	8/19-20	10/28-29	1/20-21